

生涯学習課
担当者 新谷
内線 5603
外線 076-225-1837

第78回優良公民館表彰（文部科学大臣表彰）について

本県から文部科学省へ推薦していた標記の件について、下記のとおり被表彰館が決定しました。

記

1 被表彰館（活動実績等は別紙のとおり）

（1）加賀市立橋立公民館

所在地 加賀市橋立町口 357

館長名 吉野 裕之

（2）穴水町立穴水公民館

所在地 鳳珠郡穴水町字大町ト 3-3

館長名 上野 実

（2）白山市立蝶屋コミニティセンター

所在地 白山市井関町 113 番地 1

センター名 根上 宏之

（2）金沢市富樫公民館

所在地 金沢市山科 1-6-8

館長名 金野 忠

2 表彰式の日時等

（1）日時 令和8年2月6日（金）10：30～11：00（時間未定）

（2）場所 文部科学省東館3階 第一講堂及びオンライン
東京都千代田区霞が関3-2-2

3 表彰の概要

全国の公民館のうち、事業内容・方法等に工夫をこらし、地域住民の学習活動に大きく貢献しているものを優良公民館として文部科学大臣が表彰を行う。

（昭和22年度から実施）

被表彰館の概要

かがしりつはしたてこうみんかん
加賀市立橋立公民館

自然と歴史に寄り添うまち～つながりと豊かさを求めて～

「はしたてフェスタ」は、住民からのアイデアを募り、4年ぶりに復活し、地域作品展や伝統芸能発表、模擬店など多様な企画で、住民参加による一体感を創出した活動である。「橋立地区フォトコンテスト&カレンダー製作」は、「地域の魅力発見」をテーマに写真を募集し、入賞作品を全戸配布のカレンダーに掲載し、地域への誇りを育み、住民の絆を深めている活動である。「敬老会」は、4年ぶりに復活し、75歳以上の高齢者を対象にタクシー手配など手厚くサポートしながら、高齢者の孤立を防ぎ、地域全体での支え合いを促進している活動である。「男女共同参画モデル地区推進事業」では、親子コンサートや落語会を通じて男女共同参画への理解を促進している活動である。また、「しゃべり場」や「地域づくり学び講座」で住民の主体的なまちづくり参画を促し、新たな連携を生み、住民の主体性を引き出し、地域に活力と一体感をもたらしている活動である。

あなみずちょうりつあなみずこうみんかん
穴水町立穴水公民館

世代間交流による仲間づくり

「プルート夏まつり」は、世代を超えた住民が協働で運営し、地域団体が発表する場を提供している。盆踊りの伝統が薄れる中で、住民が一体となって楽しむ機会を創出し、希薄になりがちな地域住民の絆を再構築している。「穴水公民館作品展」では、利用団体の手芸や書道、押し花など質の高い作品を展示し、来館者に芸術鑑賞の機会を提供している。出品者の日頃の成果発表の場としても機能し、地域の文化芸術振興に貢献している。「防火訓練」は、消防署員の立会いのもと、車椅子避難や煙充満時の避難など、実践的な訓練を年2回実施している。多様な状況に対応できる防災意識と知識を住民に提供し、地域社会の安全・安心に大きく貢献している。穴水公民館は地域社会の核となり、住民の絆を深め、安全・安心なまちづくりに貢献する活動を通しての多世代交流につながっている活動である。

はくさんじりつちょうやこみゅにていせんたー
白山市立蝶屋コミュニティセンター

さくらが教えてくれた、ふるさとのやさしさ

「さくら探検隊」では、地域の「蝶屋桜守の会」と連携し、旧公民館作成の桜マップを基に、全校児童が担当の桜を継続して観察をする。自然観察会や創作活動を通じて、子どもたちの自然への関心と郷土愛を育んでる。活動成果を文化祭で発表

し、冊子を配布することで、地域全体で子どもたちの学びを共有し、保護者や住民の理解と協力を得ている。児童数減少の中でも参加者が増加していることは、本活動の魅力と効果を示している。また、高齢化が進む「蝶屋桜守の会」をコミュニティセンターが中心となって、世代間交流を促進している。子どもたちが地域の大人の知恵に触れる貴重な機会を創出し、地域ぐるみで子どもを育む機運を高め、地域全体の繋がりを強化している。これらの取組は、地域の課題解決と持続可能な活動となっている。

かなざわしどがしきうみんかん
金沢市富樫公民館

子どもたちと手を携え安全・安心の未来社会を

「子どもたちの安全を最優先に考えた革新的な取組で、地域社会に多大な貢献を果たし、犯罪から子どもたちを守る！地域安全マップ」事業は、従来の安全マップとは異なり、「入りやすく見えにくい場所」に着目して作成した。小学校の正規授業として、子どもたちが自ら危険を予測し対処する力を養うため、北陸大学の専門家と連携した座学、フィールドワーク、マップ作成、発表という4ステップで構成され、子どもたちの主体的な学びを促している。「子供は地域で育てるもの」を実践し、多くの地域住民が、マップ作りに参画した。現在地域防災の観点から、地域自主防災会、コミュニティ防災士会と小学校が連携して事業を推進している。地域と教育機関の理想的な協働の証となる活動である。